

2024年度 第2回 入学試験問題

国 語 (50分)

解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

一 次の文章——線のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

1 ボウキョウの思いがつのる。 2 気力をフルってがんばる。 3 セイリョク的に活動する。

4 試合がシュウキョクにさしかかる。 5 生ハンカな知識ではできない仕事。 6 ジンギを欠いた行い。

7 ハンでおしたような対応。 8 川下にあるチヨスイ池。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

高校の生物の教科書を見ると、茎の役割として「葉と根の間で水や栄養をやり取りする」と書いてあるものがあります。実際に葉と根の間では、茎を通して水や栄養が行き交っているわけですが、それが「A」であるというのは少し妙です。もし水や栄養のやり取りが主要なAならば、根に直接葉をくっつければ済む話です。茎が途中にあるからこそ、そこを通して水や栄養をやり取りしなくてはならないのですから、話はむしろ逆で、茎をつくらなければならない理由は、何か他にあるはずです。

簡単な思考実験を試してみよう。まず、葉や根はほとんど同じで、茎のある植物とない植物を想像してみます。そしてそれらを同じ場所に混ぜて植えてみましょう。その後何が起こるか想像してみてください。

おそらく、「I」は、「II」よりも上に葉を広げることができずから、存分に光合成ができるのに対して、「III」は上を覆う葉に光を遮られて、光合成ができなくなります。しばらくすれば、「IV」がその場所を主に占めるようになるでしょう。これこそが茎の存在意義です。葉を高い位置に保持して他の植物よりも有利な立場に立つたためにこそ、茎はあるのです。

③ もっともらしい話ですが、この仮説が本当かどうか、何か別の角度から検証したいところです。そのような場合、役に立つのは、茎がほとんどない植物です。アフリカ南部、ナミビアの砂漠には「奇想天外」と呼ばれる植物が生えています。この植物は、見掛け上、根から直接2枚の葉がただただ伸び続けるだけで、茎はほとんど見えません。a、奇想天外は茎がなくてもよいのでし

ようか？

それは、奇想天外が生えている環境を見れば一目瞭然です。辺り一帯は砂漠で、ほとんど他に植物は生えていませんから、上を他の植物に覆われるという事はあり得ません。これなら、茎をもつ必要はたしかにないでしょう。

b、茎の存在意義が他の植物との光をめぐる競争にあるという仮説は、ここでも成り立つのです。

同じような推測は、奇想天外よりなじみのあるタンポポについても成り立ちます。タンポポも花をつける花茎は目立ちますが、葉をつける茎はほとんど見えません。そして、タンポポも、砂漠ほどではありませんが、何らかの理由で他の植物が上空を覆うことのない、開けた環境に見られます。背の高い草が生い茂る草原や、深い森の中ではタンポポを見かけないことも、茎の存在意義に関する仮説を支持しています。

c、世の中には、林に生える植物のなかにも茎をもたないものがあります。早春にきれいな紫色の花をつけるカタクリは、やはり葉をつける茎が見えませんが、林の中で上空を他の植物に覆われる場所に生育しています。この場合は、仮説が成り立たないのでしょうか？

その疑問に対する答えは、カタクリが生育する様子を時間を追って観察するとわかります。カタクリがよく見られるのは落葉樹の林の中です。早春に葉を出して、花を咲かせたかと思うと、夏になるだいぶ前に葉は枯れてしまいます。それらのことを考え合わせると、このような植物は、落葉樹が葉を茂らせる前の早春に葉を出して光合成をして花を咲かせ、上空が葉で覆われる頃にはもう葉を枯らして休眠に入るといふ、突貫工事型の生活をしていることが予想されます。結局この場合でも、他の植物と競争にならないときには茎をもたなくてもよい、という仮説を支持していることになりました。

では、他の植物と光をめぐる競争がある場合は、茎をどのように伸ばしていくのが一番よいのでしょうか？

工事か何かがあって、生えている草が根こそぎなくなった状況を考えてみましょう。そのような場合、光は十分に当たりますし、土の中には栄養分もあるでしょうから、土の中に埋まっていた種子が発芽して、あるいは残された根から、いつせいに茎が伸び始めます。いわば、**⑤**ヨーイドンで競争が始まりますから、速く背を伸ばしたほうが有利になります。このような場所によく見られる植物には、ほんの半月の間に50センチメートルの高さに達するものがあります。このような場合、一度他の植物の下になつてしまうと、光合成ができなくなつて、それ以上背を伸ばすためのエネルギーを得ることができなくなります。スタートダッシュが勝負です。

面白いことに、このような勝負は、異なる種の植物の間の競争だけでなく、同じ種のなかでも起こります。他の植物が生えないようにした場所に、同じ種の植物の種子だけを蒔くと、同じ種類の植物ですから、最初は同じような速度で背を伸ばしていきます。しかし、そのうち、何らかの理由で少し出遅れたものは他の植物の下になつてますます遅れ、少し他の上になつたものはより多く

の光を受けて、ますます背を伸ばします。結果として、同じ植物なのに勝ち組と負け組がくつきりと生じるのです。

同じ種であれ、違う種であれ、一度劣勢れつせいになったら挽回ばんかいは困難ですから、背を伸ばす速度はその植物にとって可能な限り速くする必要があります。半月の間に50センチメートルという速度は、おそらくその上限に近い値あたなのでしよう。一方で、そのような競争についていけない植物は、カタクリのようにまったく別の戦術を取る必要があるわけです。

ただし、一年草の場合は、夏の間にくら背を高くしても冬には枯れて、春にまたゼロからのスタートです。それに対して樹木の場合は、一年一年少しずつ背を伸ばしていきます。いわば毎年の積み重ねによって高さを稼かせぎます。最終的な高さに注目すれば、樹木に軍配ぐんぱいが上がりませんが、一方でスタートダッシュの際の生育速度を比べれば一年草のほうが上でしょう。いったい、どちらが得でしょう？

世の中には、実際に一年草も樹木もあるわけですから、この場合も、環境によって一年草が有利な場合もあれば、樹木が有利な場合もあるはずです。何年もたてば一年草の高さは樹木に追い抜かれてしまふわけですから、一年草が有利になるのは、何らかの理由で何年も同じ環境が続かない場合でしょう。つまり、短期間で環境が大きく変わるような場所では、一年草が有利になるはずです。

周期的に冠水かんすいする河原や、頻繁ひんぱんに土砂が崩れるような場所では、せつかく樹木がゆつくり、しかし着実に背を伸ばそうとしても、環境の変化によって元の木阿弥もくあみになってしまいます。そのような場所では、短期間に速く成長できる一年草のほうが有利です。一方で、同じ環境が安定して続く場所では、最終的には樹木のほうが有利になる場合も多いでしょう。ここでも、環境の多様性が生物の多様性を生み出していることがわかります。

(園池公毅『植物の形には意味がある』KADOKAWAより)

問一 空らん A に入る二字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

問二 ——線①「話はむしろ逆」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、葉と根の間で水や栄養をやり取りするために茎は必要である。
イ、茎があるために葉と根は水と栄養のやり取りを直接できない。
ウ、茎がなければ葉と根は水や栄養をやり取りする方法がない。
エ、根がないと葉は茎を通して水や栄養をやり取りすることができない。
オ、葉があるために茎は水や栄養のやり取りをしなければならない。

問三 ——線②「茎をつくらなければならぬ理由」を筆者はどのように考えていますか。理由にあたる二十八字の表現をこれより後の文章中から探し、始めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

問四 空らん【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅲ】【Ⅳ】にはA「茎をもつ植物」もしくはB「茎をもたない植物」のいずれかが入ります。その組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア、Ⅰ：B	Ⅱ：A	Ⅲ：B	Ⅳ：A	イ、Ⅰ：A	Ⅱ：B	Ⅲ：A	Ⅳ：B
ウ、Ⅰ：A	Ⅱ：B	Ⅲ：B	Ⅳ：A	エ、Ⅰ：B	Ⅱ：A	Ⅲ：A	Ⅳ：B

問五 ——線③「茎がほとんどない植物」とありますが、ここで具体例として挙げられている「奇想天外」と「タンポポ」はどのような「場所」に生えていますか。次の文の空らんにはまる十三字の言葉を文章中から探し、抜き出して答えなさい。

() がない場所。

問十——線⑦「ここでも、環境の多様性が生物の多様性を生み出している」とはどういう状況ですか。「〜できる状況」という形にまとめて説明しなさい。ただし、「一年草」と「樹木」を例に挙げ、それぞれの特性を明らかにすること。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(句読点や記号も一字と数えます。)

【A段落】

「……あー、……すみません」

手すりをにぎりながら a 立って考えごとしていたから、急に至近距離から声がして、 b 身体を動かしてしまった。同時に、話しかけられているのは自分じゃないだろうって思う。まったく知らない女のひとの声だったから。

でも、ぼつちり目が合った。

レンズが大きい、四角い黒フレームの眼鏡。ゆるっとお団子にまとめられた髪。ベージュのジャケット、膝の上には旅行用っぽい大きさのバッグ。

立っているわたしのすぐ前の席に座るそのひとは、明らかに、わたしに話しかけていた。しかも困っている顔で。

えっ？ えっ、知ってるひと？

記憶のデータベースと爆速で照合してみたけど、全然ヒットしない。年齢は大学生くらい？ でもそのくらいの年代で知り合っている……と思ったところで、周りの降車ボタンが光っていること、自分の立つ位置が相手の進路をびったりふさいでいることに気づいた。

あ、降りたいからどいてほしいんだ！ ひとの邪魔になるかもって、乗ったときには気にしてたのにすっかり忘れてた。

「ごめんなさい……！」

足首にはさんでいた通学バッグをぼつと持ちあげ、身体も c 右側に寄せて、通れるようにする。でもお姉さんは、シートからちよつと腰を浮かしはしたけど、やつぱり困った表情のまま、行動を決めかねている感じだった。そもそもバスはまだ次の停留所に着いていなくて、手前の赤信号で停まっただけ。

頭の中でつかいはてなマークが点滅する。

そんなわたしに向かって、お姉さんは左手をあげた。どうやら持っているものを見せたくて。

ICカードだ。見慣れたデザインの。
なんでそれ見せるんですか？ っ、はてなマークが一段階大きくなったとき。

「Can I ————— ?」

何を言われたかはわからなかった。

でも、それが英語だったことだけはわかった。

頭の中のはてなマークが、同じ大きさのびっくりマーク^③に変わる。さっきの「すみません」の言い方がすごく自然だったから、まさか日本語を話せないひとだとは思ひもなかった。

きつとわたしの表情は緊張^{きんちょう}していて、それを見れば、通じていないのは明らかだったと思う。相手もちよつとあわてた表情に変わった。ああ、伝わってない、どう言ったら伝わるんだろう？ っ、表現を探しているのがひしひし伝わってくる。^④ 伝わってくるのに。

「あ、え」

意味をなさない音ばかりがわたしの喉^{のど}からもれる。

なんでよりによって自分が選ばれちゃったんだろう。

ごめんなさい、役に立てませんって言いたい。なんにもわからなかったふりしたい。逃げ出したい。でも、心臓がこんなにもバクバクしているのは、不安や混乱のせいばかりじゃなかった。ぶわっと沸^わき立った、もつとくっきりした感情のせい。

……わかりたい。

答えたい！

その思いが何かの拍子^{ひょうし}に届いたのか、お姉さんの口がもう一度、動いた。

「————— ?」

今度は英語ですらなかったし、かなりかぼそい声だった。だけど英語の質問よりずっと、すらすら話しているように聞こえた。もしかしてふだんしゃべってることば？ だとすれば困ったあまり、つい出たひとりごとかも。

お姉さんがカードを持つ左手で、すつとわたしの後ろ側を指す。

そこにあるのは車体中央のドアだ。

見せられているICカードに、指されているドア。ふたつが頭の中でカチツと結びついて、大ヒントに変わる。
「ICカードで支払^{しはら}うんですが、あのドアから降りていいんでしょうか？」

聞かれてるのはきつとそういうこと。

やった、わかった！

ってうれしくなったのは一瞬間^{いっしゅん}で、すぐさま難問^⑤がのしかかってくる。これ、どうやって答えればいいのか？

きつと英語なら通じる。でも、えつと、〈降りる〉ってなんて言うんだっけ？ 英語の授業で「来年以降にしっかり習うけど、先取りしちやおう」って先生が黒板に書いていた熟語の中に、〈乗る〉と〈降りる〉がセットであったはず。へー、知ってる単語同士の組み合わせでいけるんだ、って意外だったのを覚えてる。でも覚えてるのはそこまで。

ちゃんと勉強しとくんだったって、こんな切実に感じたのは初めてで、感じたときには手遅れ^{ておく}なんて最悪すぎる。お姉さんはさつきどう表現してた？ あつ、それが全然聞き取れなかったんだ。やばいやばいやばい、停留所に着いちやう……。

ってか、着いた！

バスが完全に停まり、運転席の近くでブザーが鳴る。わたしも、お姉さんも、音が鳴ったほうを見る。

前方のドアがぐいんと開いた。

停留所から乗ってくるひとはいないのか、中央のドアは閉まったままだ。だからよけいに、前方のドアが開いたその勢いが、「じやーん、正解はこちらです！」って言っているみたいで。

思わず顔を見合わせた。

「あのドアから、降ります」

そつちをばつと指差しながら、自分の口から出たのは日本語だった。するんとしゃべってしまった、理解してもらえるかなんて考えずに。

だけどお姉さんとわたしは、笑ったんだ。

同時に「ふっ」て。

まあ、見ればわかるよね。わたしたち悩むことなかったね。……きつとお互い^{たが}、そんなふうにおかしくなって吹き出した。

大きなバッグをかかえて立ちあがったお姉さんは、「ありがとう」ってまたなめらかに言っつて、さよならの代わりに手を振^ふつてくれた。わたしも振り返す。

お姉さんが運転席の横でICカードをタッチして、軽やかにステップを降りていくと、ブザーとともにドアが閉まってバスはいつものバスに戻^{もど}った。

なんてことない学校の帰り道。

高校卒業まで、まだ何百回とくり返す登下校のうちの、ほとんど誤差みたいな一瞬。

だけどその誤差みたいな一瞬のできごとを、これから先、長いあいだ覚えているような気がした。そういう気がしたんだってことを誰かに聞いてもらいたくなかった。

⑥胸の真ん中がじんじん熱い。

無意識に、顔に手を当てていた。指先が眼鏡のフレームに触れる。

——今まで見えなかったものがたくさん見えて、おどろくかもしれないよ。

わたしが話を聞いてもらいたいその誰かは、もう決まっていた。

【B段落】

ゆるやかな坂を登っていく。自分の足で一歩ずつ、早くも遅くもない速度で。あまりにも坂が長いもんだから、やっぱり途中で嫌になったりする。でも行くんだ、ちよつとわくわくしながら。会えるかどうかさえわからないのに。

いてもいなくても、もう関係ないのかもしれない。いつの間にか美術館のある森は特別な、すごく大切な場所になっていて、この場所さえ残ってくれば、たとえ簡単には会えなくなったって大丈夫。

ううん、やっぱり違うな。さみしいのはさみしい。代わりにはならない。今後ここへ来るたび、そのひとがもうこの街にはいないこと、手が届く範囲からはるか遠くへ行ってしまったことを実感するはめになるんだろう。

でもさみしいからって、行かないで、なんて願うのは終わりにする。

「奈鶴ちゃん？」

ぐねぐねした遊歩道が、丘の上へと続く階段にぶつかるところ。頭の上から降ってきた声に顔を上げれば、会いたかった顔がそこにある。銀色のまんまる眼鏡に、真っ黒なコートにブーツ。

「やっぱり」

「やっぱり？」

「奏先生、前に『日曜の夕方に美術館行った』って話してたから、会えるといいなって思って来たんです。あー疲れた！」

階段の下ではーつと息を吐いたわたしのところまで、奏先生はあわてて降りてきてくれる。すぐそばに背の高いユリノキが一本あって、秋からどんどん散り落ちた葉っぱが、まだ地面のあちこちに敷かれています。階段を下りきった奏先生の足がそれを踏むと、さくさくつと乾いた音がした。

「そっか、奈鶴ちゃん、歩きか！ 私は車でしか来ないから、坂道の大変さをわかってなかったよ」

「そんなんですよー。近所だからこそ、です」

「それはそれは、おつかれさま」

わたしの汗ばんだ顔を両手でばたばたあおいでくれる。日没が近づいて気温はだんだん下がってきているけど、昼間のあたたかさがまだ辺りにうっすらと残っていた。歩いたせいで真冬のコートだと暑いくらい。

「美術館の話は何度もしたけど、ここで会うのは初めてだね」

「ですね」

「このくらの時間帯、好きなんだ。……ひとが減って、森から夜が広がって、灯りが点いてく感じが。完全に真っ暗になるとあぶないからだめだけど」

奏先生は下りてきた階段を見あげた。それから、建物から出てきた数人のグループが楽しそうに話しながら遊歩道をぐるりと回り、やがて駐車場のほうへ消えていくのを目で追ったりした。

わたしはその横顔を見る。それが見えるのは、まだそんなに暗くないからで、つまり春が近づいて日が延びたからだ。完全にならば、奏先生はもう日本にいない。

両方の大学院でやらなきゃいけない手続きがいろいろあって、二月はその準備で忙しくなること。向こうで住むところが決まったこと。飛行機の予約が済んだこと。

短いあいだにも情報はアップデイトされて、教わる最後の日程もすでに決まっていた。来週の水曜。その日で奏先生は家庭教師じゃなくなり、わたしは教え子じゃなくなる。

ラストの夜は、お父さんに会社近くのケーキ屋さんでいちばん人気のタルトを買ってきてもらって、みんなでお茶会する予定だ。お父さんとお母さんも奏先生に感謝を伝えたいだろうし、わたしは口をはさまないでいようと思っている。だからその前に話が出たかった。一対一で、この場所です。

「常設展で、鳥の絵、見ましたか？」

奏先生がぱつとこつちを見た。

「鳥？」って言いながら、瞳が記憶をたどっているような動きをする。

「あ、わかった。横長の画面に木がたくさん生えてて、鳥が一羽だけ飛んでる絵？ 木立の奥で、湖っぽい水面がきらきら光ってるの」

「そう、そうです」

「タイトルが長くていつも忘れちゃうけど、私はざっくり〈湖の絵〉って覚えてた」
「わたしは鳥ばかり見てたから、〈鳥の絵〉って呼んでました」

少しふしぎで、楽しい気分になった。同じ一枚の絵について話しているのに、気になるところや受け取る印象は結構違うんだ。わたしの **X** と、奏先生の **Y**。

「その絵が奈鶴ちゃんのお気に入り？」

「そうです。奏先生にだけ教えたくなりました」

「なるほど……！ 了解です、秘密は守ります」

「ドイツに行っても、忘れないでくれたらうれしいです」

言ったら、ちよつと空気が変わった。⑦ ショッピングモールに行った日以来、こつちからは留学の話題に触れずにいたのに、急に

ぼんと出したからおどろかせたんだらう。

だからこそこのことを報告したかった。

「この前、学校帰りにバスに乗ってたら、知らないひとから英語で話しかけられたんです」

話題があつちこつちしても、奏先生はちつとも嫌な顔をしない。それどころか「へえ！」ってリアクションまでくれる。こういうところが好きだと思う。

「ほとんど聞き取れなくて、めちやくちや焦りました。だけどジェスチャーとかで、降りるドアを聞かれてるんだってやつとわかつて。でもどう教えたらいいいのかわかんなくて……」

「わあ。それで？」

「結局こつちもジェスチャーと、日本語で乗り切った、のかな？ 乗り切れたって言えるか微妙だけど、伝わってはいたと思えます。笑ってくれたし、最後に手を振ってくれて、わたしも振り返りました」

「すごい」

「すごくないです。奏先生や学校の先生に、ごめんなさいって気持ちになりました。いっぱい英語教わってるはずなのに、頭からぜんぶ飛んじやった」

「ああ……。たしかに勉強すればするほど、使える単語や表現は確実に増えるし、めざすゴールを設定するのはとてもいいと思う」奏先生はそこでことばを切った。じつと何かを想像しているみたいに。

「でも、お互いに伝えたいメッセージがあつて、それを伝え合つたわけでしょう。タイムリミットがある中で、奈鶴ちゃんも相手のひともあきらめなかつた。偶然同じバスに乗り合わせて、たぶんもう会わないふたりが、手を振り合つて別れたんだよ」

そして奏先生はもう一度、「すごいよ」って味わうように言った。

うれしかった。ほめられたからじゃない。バスの中で伝えたいことが伝わったとき、わたしの胸に広がった気持ちを奏先生が想

像して、一緒に感じてくれたのがわかったから。

奏先生はドイツで、あんなふうにどきどきする瞬間を数えきれないほど体験するのもかもしれない。毎日新しいことばに出会って、そのたびに頭がわーってなって、あらゆる感情に振り回されるのかもしれない。

英語もドイツ語も、日本語も、どこかに大事にしまわれているものじゃなくて、生きているんだろうな。ころころ転がって、いろんな色になって、変わっていく生きもの。しかもそれにばったり出会うどきどきは、はるか遠くの場所にだけ存在するんじゃない。わたくしの周りにもつねにあるみたい。

「ことばって、なんか、おもしろいかも」

半分は自分に向かって言ったようなものだったんだけど、奏先生が、不意を突かれたって反応をした。そして「それを答えにするのもありじゃない？」って言った。

「答え、……あ、大きな問い？ 『どうして英語を勉強するのか』」

「そう、英語にかぎらず。『ことばって、なんか、おもしろそうだから』」

わたしの代わりに答えた奏先生は、あはは、と声を出して笑った。

これまで見たことのない、ついわたしも一緒になってきゃっきやしちやうくらしいの、まるで友だち同士みたいな笑い方だった。

「自分で見つけたね、奈鶴ちゃん」

⑧「大学院合格おめでとうございます、奏先生」

(眞島めいり『バスを降りたら』PHP研究所より)

問一 空らん 、、に入る最もふさわしい言葉を次のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、

同じ記号をくり返すことはできません。

ア、ぎゅっと イ、さらっと ウ、ぼーっと エ、びくっと

問二 — 線① 「困った表情のまま、行動を決めかねている感じ」とありますが、それはなぜですか。理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、「わたし」がバッグを持ち上げて身体を寄せただけでは、まだ通行しにくかったから。
イ、「わたし」にもを尋ねたいのだが、どのように伝えたらよいか迷っていたから。
ウ、「わたし」が信用できる人物かどうか、この時点ではまだ自信が持てなかったから。
エ、「わたし」に移動を頼んだものの、バスの停車にはしばらく時間がありそうだったから。

問三 — 線② 「バスはまだ次の停留所に着いていなくて」とありますが、「わたし」がバスに乗っているのはなぜですか。次の文の空らんにはまるる五字以上十字以内の表現を【A段落】の文章中から探し、抜き出して答えなさい。

() だから。

問四 — 線③ 「びっくりマーク」の大きさはどれぐらいであると読み取れますか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、はじめに浮かんだはてなマークとほとんど同じ。
イ、はじめに浮かんだはてなマークより一段階小さい。
ウ、はじめに浮かんだはてなマークより一段階大きい。
エ、はじめに浮かんだはてなマークより二段階小さい。
オ、はじめに浮かんだはてなマークより二段階大きい。

問五 — 線④ 「伝わってくるのに」とありますが、ここでは何によって「伝わってくる」のですか。文章中から三字以内の言葉を探し、抜き出して答えなさい。

問六 — 線⑤ 「難問」とありますが、「わたし」にとつての「難問」とはどのようなことですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、「お姉さん」の質問の内容をどのように説明すればよいのかということ。

イ、「お姉さん」の質問にあるICカードでの支払い方法が全く分からないということ。

ウ、「お姉さん」の質問は理解したがバスがもうすぐ停留所に到着してしまふということ。

エ、「お姉さん」の質問に対する答えをどのようにして伝えればよいのかということ。

オ、「お姉さん」の質問に対して日本語と英語のどちらで対応すればよいのかということ。

問七 — 線⑥ 「胸の真ん中がじんじん熱い」とありますが、ここで「わたし」はどのようなことをどのように感じていますか。【B 段落】の内容をふまえ、一文にまとめて説明しなさい。

問八 空らん X、 Y に入る最もふさわしい漢字一字を文章中から探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

問九 — 線⑦ 「ショッピングモールに行った日以来、こっちからは留学の話題に触れずにいた」とありますが、「ショッピングモールに行った日以来」、「わたし」はしばらくの間「奏先生」の「留学」についてどのように考えていたと読み取れますか。「留学」という語を用いて、十五字以上二十字以内にまとめて答えなさい。

問十 — 線⑧ 「大学院合格おめでとうございます、奏先生」とありますが、この言葉から「わたし」のどのような決意が読み取れますか。自分の言葉で一文にまとめて説明しなさい。

国語(一)

受験番号

氏名

一枚目

二枚目

合計

一

1

ボウキョウ

2

フル

(つて)

3

セイリョク

(的)

4

シユウキョク

5

(生)

ハンカ

6

ジンギ

7

ハン

8

チヨスイ

(池)

二

問一

問二

問三

始め

終わり

問四

問五

問六

a

b

c

問七

問八

問九

問十

